福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物認可（毎月一日発行）
2026年2月1日（日）第857号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人 / 張慶泰・編集人 / 鄭守煥
印刷所　青丘文化社

伝道主日
説　教

一旦、始めなさい

＜ヨハネによる福音書12：24＞

金 炯 振 牧師（千曲ビジョン伝道所）

アップルという会社はコンピューターと携帯電話を作って全世界を虜にした会社ですが、このような会社も始まりは倉庫でした。創業者は初めに自分の家でプログラムを作り、倉庫でコンピューターを作ったそうです。

アップルという会社だけでなく、有名な会社の始まりは家や倉庫、学校の寮のようなところが多いのですが、共通点は一旦何でも始めたということです。良い事務室や投資家がいなくても、自分たちの家ででも始めた時に道が開かれ、投資を受けるようになり、事業も成功することができたのです。うまくいくと断言することができたでしょうか？ 成功が保証されていたのでしょうか？もし彼らが電卓だけを叩いていたら、会社は作れなかったでしょう。状況が良くなくても、意志があれば小さなことでも始めることが重要です。

私は信仰もこういうものが重要だと思います。本文の小麦の粒が地面に植えられて実を結ぶには、まず何をしなければなりませんか？ 種を植える必要があります。天気が良くても悪くても、状況が良くても悪くても、ひとまず植えてこそ育つことができるのです。本文はイエス様が救いの実になるという内容です。そうなるためには、まずイエス様がお言葉に従って十字架を背負って死ななければなりません。ところでイエス様がそれを先送りしたらどうなりますか？釘を刺されたらとても痛そうだし、人に恥をかかされるのも我慢できないので他の方法を見つけていたらどうなったでしょうか？まず従順に十字架を背負ってこそ､救いの道が開かれるのです。

私たちがここで覚えておくべきことは、一旦始めることです。祈ろうと決心したのなら始めるのです。言葉を読もうと決めたなら今から読むのです。隣人を伝道することを望むなら、考えるだけでなく、言えばいいのです。すると、その次は神様がどんな形であれ道を開いてくれます。一旦始めることが重要です。計画だけ立てて日程を組んで目標を設定することも重要ですが、それに時間を浪費するとどうにもなりません。

勉強ができない学生たちの特徴の一つが計画だけ立てて終わることです。始めなければ何の役にも立ちません。

イエス様は心配することで背が伸びるのではないとおっしゃいました。私たちは多くの悩みと心配を持って憂慮します。しかし、いくら心配して悩んでも人生の問題は解決しません。祈るべきだということを知っていると言って先延ばしにすると何も起こりません。先に祈るべきです。祈りを始めなければなりません。時を得るかどうかにかかわらず、祈りを始めなければなりません。 長くするか短くするか、祈りを始めなければなりません。 その問題を持って神様と熾烈な戦いをしなければなりません。 すると神様が道を開いてくれます。

福音を伝えることも同じです。ある人は伝道に対する賜物がなければならないと言い、話が上手でなければならないと言います。人々と関係が良くなければならないと言いますが、そうではありません。伝道は性格の良い人、話が上手な人、賜物を受けた人だけがするものではありません。賜物があるといいでしょう。 うまく話せば役に立つでしょう。重要なことは始めることです。

話が上手でも下手でも、賜物があろうがなかろうが教会に来てみてください、と言うのです。それが始まり、その言葉を聞いた人の心霊に変化するのです。教会は、その仕事のために人が多かれ少なかれプログラムを行うことです。

近所には日本福音教団の教会がありますが、韓国人牧師が牧会をしています。去年の夏に夏季学校をするからうちの子供たちも来てくださいと言われて行ったのですが、幼稚園に通う子供たちから中学生のうちの子供たちまで8人が全部でした。そのやって子供たちが集まって3～4時間ゲームをしてご飯を食べながら夏の聖書学校を進行しましたが、華麗なプログラムはなかったものの、子供たちはとても楽しみながら来年会うことを約束しました。

私はその姿を見て感動しました。たとえ韓国教会に比べて人数も、プログラムもすべてが比較できないほど劣悪だが、それでも福音を伝え子供たちを言葉で教えるためにもがく教会の切実さと文句を言わずにその時間を共にする子供たちの姿を見ながら私たちがしていることが何なのかもう一度心を掴み直すことができました。もし子供の数が少ないからといって聖書学校をしなかったらどうだったでしょうか？プログラムがまともなものがないと聖書学校をしなかったとしたらどうだったでしょうか？こうだからできない、ああだからできないと言ったらどうだったでしょうか？

上手で下手なのは後の問題です。 神はその仕事をしているかどうかを見てらっしゃいます。環境が良くても悪くても福音を伝えるために何でもしようとする教会と信徒たちを見ていらっしゃいます。私は日本の多くの教会が状況を言い訳にせず、何とか言葉を教えようとしているのを見ました。神様はその苦労と献身に必ず善良なもので福をくださるでしょう。切実な献身と涙の祈りが無駄にならないように福音の善良な実を得るようにしてくれるでしょう。ですから、途中で気を落として諦めたくなる時もあるでしょうが、福音を伝えることをやめないでください。どんな言葉でもどんなことでも始めてください。神様がその献身とその努力の上に驚くべき福を加えることを信じます。

総会伝道主日を迎えてもう一度私たちの信頼を新たにし、一言から始めて福音を伝えることを止めない教会と信徒であることを神様に祈ります。

関西地方会

2026年新年査経会開催

朴栄喆牧師を講師に、大阪と京都で開く

関西地方会伝道部主催の2026年新年査経会が、「わたしは主、あなたの神」を主題に、1月11日（日）と12日（月）の両日にわたって開催された。

今回は、西南地方会の対馬めぐみ伝道所で奉仕されている朴栄喆牧師を講師としてお招きした。１日目は、11日（主日）の午後３時から大阪教会で行われ（80名参加）、「地の果てから」（イザヤ41章8～14節）という主題で説教がなされた。

２日目は12日（月）午後６時から京都教会で行われ（46名参加）、「見捨てはしない」（ヨハネ14章12～18節）という主題で説教がなされた。

今年も大阪教会と京都教会のYouTubeチャンネルよりライブ配信がなされた。朴栄喆牧師は、御言葉を通して神は絶望の中にいても、どんな状況に置かれても、ご自分の民と共にいてくださって、決して捨てない、離れない、諦めないことを約束してくださる神であることを力強く証しされた。神の深い恵みを味わう機会となった。

また、同日の午後２時から「この宝を土の器の中に」（第二コリント４章７～11節）という主題で教役者セミナーが開催された（22名参加）。

（報告：朴時永牧師）

西部地方会

韓日交流信徒大会を開催

日本基督教団神戸栄光教会で

１月12日成人の日に在日大韓基督教会西部地方会・日本基督教団兵庫教区共催による第40回日韓交流信徒大会が教団神戸栄光教会で開催された。この大会は、1984年に在日大韓基督教会と日本基督教団との間に結ばれた宣教協約をふまえ、西部地方会と教団兵庫教区とが協約の実施をめざし、1985年以来、毎年1月の成人の日に開催してきたものである。今回は第40回記念大会となった。参加者は95名（西部地方会31名、兵庫教区64名）、大会委員長は森章一氏（教団神戸栄光教会）、副委員長は崔美恵子長老（武庫川教会）。

開会礼拝では、眞鍋ヨセフ伝道師（教団神戸栄光教会）の“愛の命令”という説教の後、佐藤成美牧師（教団神戸栄光教会）の司式で聖餐に共にあずかった。礼拝後、安井修二氏（教団神戸栄光教会）、林英宰長老（武庫川教会）の二人が本大会の40年の歴史を振り返った。前半15年の壮年達の熱い議論中心の大会から、後半25年の女性と青年達が合流し、ともに賛美することが大きな目標になった本大会の変遷が紹介された。また、貴重な写真集のスライド上映で映像でも本大会の歴史を確認した。午後からは梁律子勧士（神戸教会）の司会で、森なお牧師（兵庫教区総会議長）と西部地方会有志のNKGB（日韓合同バンド）による賛美と祈りのコンサートがあった。

在日大韓基督教会と日本基督教団の両教会がお互いを理解し、尊重し、助け合うためには、一堂に会し共に礼拝を捧げ、賛美し、祈ることが最も重要と思われた。この大会が40回も続いた原動力は、"二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである"との主のみ言葉そのものではないかと思う。協約が締結されるや直ちに実行委員会を組織し、１年以内に第１回目の大会を実現した草創期の先輩方のご苦労に深く感謝したい。その間天に召された方も多いが、天国でもきっと韓日の交わりを続けていることと思う。

（報告：武庫川教会　林英宰）

カナダ長老教会から青年がインターンとして来日

この度、2026年１月から６ヶ月間、カナダ長老教会（PCC）からインターンとして金瑞允（Sopia KIM）さんが来日した。

金瑞允さんは2001年韓国で生まれで、生まれてから８か月で両親に連れられカナダに移住したそうだ。牧師である父親の牧会先のカナダ人教会に育てられ、トロント大学を卒業してからカナダ長老教会の総会事務局で国際活動部プログラムのアシスタントとして勤務を始めた。

インターンとして来た目的としては100年前からカナダ長老教会が宣教に励んでいた在日大韓基督教会の方々との交わりや若い世代とコンタクトを取りながら聴き取りなどをするためだそうだ。

短い期間でありながら早速日本語学校に通いはじめ、日本語が少し慣れる５月頃からは中部、関西、西部、西南の在日大韓基督教会を回りながらPCC宣教師の足跡を追い、また在日次世代との交わりを持ちたいとの計画をされている。

先週東京で開催された「外キ協」集会の全日程も参加するなど積極的な姿勢で取り込んでいる。

福音新聞３月号休刊のお知らせ

都合により2026年３月号の福音新聞を休刊いたします。ご了承下さい。

外キ協第40回全国協議会及び全国集会開催

１月22日（木）から23日（金）にかけて、日本福音ルーテル東京教会（１日目）および日本キリスト教会館（２日目）を会場に、「外国人住民基本法制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）」主催による第40回全国協議会が開催された。日本各教派･諸団体､ならびに各地域の外キ連から約40名が参加し、KCCJからは４名が出席した。

「隔ての壁を取り壊して」を主題に、外キ協事務局長の秋葉正二氏が開会礼拝を担った。続いて、韓国NCC教会と社会委員会の宋基勲（ソン・ギフン）幹事より韓国教会の現状についての特別報告が行われ、さらに神奈川新聞記者の石橋学氏から、川崎市桜本地区における排外主義に反対する取り組みについての報告がなされた。

２日目には、大久保正禎氏より外キ協第３期組織・運営案について、森小百合氏より2026年の活動計画についての発題が行われた。

午後の部では、各教団および地域外キ連から活動報告と第３期組織に対する意見が共有され、全体協議を経て、第３期の組織、予算、活動計画、ならびに声明文が承認された。

23日夜には、早稲田奉仕園リバティホールにおいて、「排外主義にNO ！ 共に生きる社会にYES ！」をテーマに全国集会が開催され、約60名が会場およびオンラインで参加した。日本NCCの大嶋果織総幹事による説教の後、排外主義の現実の中で共に生きる日本人、難民、永住者の若者たちの証言に耳を傾ける時がもたれた。

今回の全国協議会および全国集会をもって外キ協は第３期の歩みを開始した。今後、新たな課題を見いだしつつ対応を進めていくことが確認された。これらの課題を、私たちの総会、また日本にあるすべての教会の宣教課題として共有し、外キ協との連携を一層深めていきたい。　**（報告：申容燮）**

謹賀新年

＜関東地方会＞
・会　長：金迅野牧師（横須賀）
・副会長：鄭有盛牧師（東京東部）、李永久長老（横浜）
・書　記：姜章植牧師（品川）・副書記: 田一光牧師（水戸）
・会　計：金恵珍長老（川崎）・副会計: 金恩英長老（東京第一）
・宣教伝道部長：李明忠牧師（横浜）
・教育部長：姜英珍牧師（東京第一）
・社会部長：金伸禹牧師（東京中央）
・信徒部長：具滋佑牧師（東京希望）
・考試部長：金根湜牧師（ハンサラン）
・財政部長：金恵珍長老（川崎）
・監　査：申大永長老（東京希望）、柳町功長老（横浜）

＜中部地方会＞
・会　長：李珍容牧師（豊田めぐみ）
・副会長：許光渉牧師（岡崎）、崔宰熏長老（名古屋）
・書　記：蔡銀淑牧師（大垣）・副書記: 金成彦牧師（豊橋）
・会　計：高在道長老（名古屋）・副会計: 金珍明長老（長野）
・伝道部長：金明均牧師（名古屋）
・教育部長：金成彦牧師（豊橋）
・社会部長：李大宗長老（名古屋）
・青年部長：金炯振牧師（千曲ビジョン）
・財政部長：高在道長老（名古屋）
・女性部長：金恩淑執事（豊橋）
・考試部長：李珍容牧師（豊田めぐみ）
・韓・日宣教協力委員長：蔡銀淑牧師（大垣）
・電磁メディア委員長：崔和植牧師（長野）
・監　査：呂和淑勧士（名古屋）、曺述燮勧士（名古屋）

＜関西地方会＞
・会　長：金鍾権牧師（平野）
・副会長：宋南鉉牧師（大阪第一）、吉井秀夫長老（京都）
・書　記：裵貞愛牧師（枚岡）副書記：新井由貴牧師（京都南部）
・会　計：金光成長老（大阪）副会計：高慶美長老（大阪）
・伝道部長：朴栄子牧師（豊中第一復興）
・教育部長：金大賢牧師（堺）
・社会部長：申容燮牧師（KCC）
・青年部長：梁陽日長老（大阪）
・女性部長：金仁姫勧士（京都）
・考試部長：趙永哲牧師（大阪北部）
・視察部長：金鍾権牧師（平野）
・壮年部長：森克之長老（大阪）
・宣教協力部長：宋南鉉牧師（大阪第一）
・納骨堂委員長：朴成均牧師（和歌山第一）
・会計監査：森克之長老（大阪）、嚴敞俊長老（京都）

＜西部地方会＞
・会　長：韓世一 牧師（神戸）
・副会長：中江洋一牧師（広島）、白承豪長老（神戸）
・書　記：尹鐘憲牧師（明石）・副書記：孫信一牧師（西宮）
・会　計：崔美恵子長老（武庫川）
・副会計：尹聖哲長老（神戸教会）
・伝道部長：韓承哲牧師（神戸東部）
・教育部長：尹鐘憲牧師（明石）
・社会部長：李相徳牧師（三次）
・信徒部長：李重載牧師（川西）
・考試部長：崔亨喆牧師（岡山）
・視察部長：中江洋一牧師（広島）
・宣教協力部長：韓世一牧師（神戸）
・監　事：李重載牧師（川西）、金哲鎬長老（神戸東部）

＜西南地方会＞
・会　長：尹善博牧師（博多）
・副会長：趙顕奎牧師（別府）、高文局長老（別府）
・書　記：林明基牧師（福岡）
・会　計：崔日承長老（博多）
・伝道部長：辛治善牧師（福岡中央）
・教育部長：郭鏞吉牧師（沖縄）
・社会部長：金承熙牧師（下関）
・青年部長：趙顕奎牧師（別府）
・女性部長：金承熙牧師（下関）
・宣教協力部長：李恵蘭牧師（折尾）
・視察部長：朴栄喆牧師（対馬めぐみ）
・考試部長：林明基牧師（福岡）
・歴史編纂委員会長：金聖孝牧師（熊本）
・財政部長：崔日承長老（博多）
・監　査：高文局長老（別府）、郭鏞吉牧師（沖縄）

＜全国教会女性連合会＞
・会　長：宋福姫勧士（名古屋）
・副会長：崔美恵子長老（武庫川）
・書　記：高慶美長老（大阪）・副書記：李正子勧士（名古屋）
・会　計：李敏禮勧士（西新井）・副会計：金恵珍長老（川崎）
・教育局長：李好子執事（小倉）
・宣教社会局長：姜志鮮長老（大阪）
・財政局長：李奈々執事（平野）
・心のケア局長：尹豊子勧士（神戸）
・関東会長：李銀珠勧士（横浜）
・中部会長：金恩淑執事（豊橋）
・関西会長：柳綏美勧士（京都南部）
・西部会長：梁律子勧士（神戸）
・西南会長：任永淑執事（折尾）
・会計監査：朴英遠長老（品川）、兪貞恵勧士（武庫川）
・顧　問：李炫知勧士（神戸）
・総　務：石橋真理恵伝道師（堺）

2026年／第40回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者集会宣言

私たち「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」（外キ協）は、2026年1月22日～23日に第40回全国協議会を日本福音ルーテル東京教会と日本キリスト教会館において開催しました。「差別と排外主義に抗し、『共に生き、共に生かし合う』教会と社会」との主題のもと、各地外キ連および外キ協加盟各教派・団体の代表者ら39名が参加し、「外国人住民基本法」「人種差別撤廃基本法」「難民保護法」の実現と、在日コリアン・移民・難民と共に生きる地域社会の形成に向けて、韓国社会の亀裂と不平等に向き合う韓国エキュメニカル運動、また、川崎においてヘイトに立ち向かう市民の声に聞き、指紋押捺拒否に始まる外キ協運動40年の到達点を確認し、排外主義を克服し外国人住民との共生社会を実現する新たな宣教プラットフォームとして「第三期外キ協」創出の一歩を踏み出しました。

基調報告では、政権による戦争準備と排外主義政策が、民間のヘイトスピーチ、ヘイトクライムを悪化させ、外国人住民を差別と排除の苦しみに追い込んでいる現状を認識し、これに対し「ヘイトにＮＯ！」の声を市民と共に挙げていく決意を新たにしました。また、外登法から続く外国人住民への抑圧を克服する日本社会の責務を再認識し、東日本大震災にあって孤絶させられた移民女性たちのかすかな声を聴き、「支援する／される」関係ではなく具体的に外国人住民と「協働する」重要性を知りました。

韓国の教会の報告からは、韓国社会における民主主義の危機、排外主義、首都圏集中構造、ＳＮＳの情報を鵜呑みにする若者の状況などの問題が挙げられると共に、右傾化し、様々な問題に沈黙、同調、加担する教会の現実も報告されました。「私たちが直面している『転換』とは、周縁化され、排除されてきた人々の声を再び教会へと戻す、悔い改めと再配置のプロセスです」とのメッセージは、共通する課題に直面する日本の教会の歩むべき道を示してくれました。同じ東アジアの地域にあって日韓の教会間の連帯の重要性を改めて認識しました。

2013年に川崎で起こったヘイトデモを契機として差別をなくすため報道を続けてきたジャーナリストからは、差別を禁止する法律が無い中で増幅するヘイトスピーチ、ヘイトデモに対して、川崎桜本の在日コリアン住民がヘイトに対して一致して声を挙げ、地域住民が共に立ち向かう中から、川崎市において罰則を伴うヘイトスピーチ禁止条例が全会一致で成立に至る道のりが示されました。地元新聞は、ヘイトに立ち向かう住民の想い、ヘイトスピーチ禁止条例に込められた精神に連帯し、明確に差別に反対し、ヘイトから人権を守る記事と編集姿勢を形作っていきました。ヘイトデモを行う人びとに人格をかけて「共に生きよう」と呼びかけ、差別を禁止する法律の必要性を訴え続けた在日コリアン住民のたたかい、それに連帯し差別に対する批判の声を挙げつづける地元新聞の姿勢から、差別に反対し人権を守る繋がりを広げ、粘り強く訴え続けることの大切さを伝えられました。

第40回「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト者集会」から、外キ協は39年の運動の到達点を踏まえ、第三期の歩みへと踏み出します。1980年、外登法に反対し、指紋押捺拒否の声を挙げた在日コリアンの厳しいたたかいへの連帯から、外キ協運動は始まりました。1998年、指紋制度全廃を目前にして、外登法、入管難民法に代わる人権基本法として「外国人住民基本法」を作成し、外国人住民が本来享有する権利を一つひとつ挙げ、生活者・地域住民、権利主体としての外国人の視座から多民族・多文化社会を構想しました。これに基づいて、日本の外国人制度の非人間性を指摘し、日本社会と外国人住民が「共に生き、共に生かしあう」関係性を宣教課題と認識し、模索してきました。

これらの到達点に基づき、外キ協は「外国人住民基本法」を求める運動を、日本のキリスト教会・キリスト者の担うべき宣教課題として捉え、各地外キ連の地域における取り組みに立脚する水平関係の組織という外キ協運動の特質を活かし、第三期において、各地外キ連の活性化と外キ連間及び事務局との連携を強化していきます。

教会・教派間、また韓国教会・アジア教会・世界教会及び市民団体との緊密なネットワークの構築と連携を進め、外国人住民の人権確立に向けた一致した運動の創造を目指します。

さらに次世代の運動の担い手との協働を進めると共に、ジェンダー正義の視点から組織や運営のあり方を見直すことを課題とします。

これまでの外キ協運動の目標と課題の総括として、人種主義・植民地主義こそが日本のキリスト教が向き合うべき根本の宣教課題と捉え、その克服を目指します。

私たちは今日、早稲田奉仕園リバティホールを会場に「第40回『外国人住民基本法』の制定を求める全国キリスト者集会」を開催し、入管難民法の改悪によって移民･難民、その子どもたちが追い詰められ、不合理な苦しみを負わせられる現状の問題を直視し、排外主義、ヘイトに抗し、外国人住民に連帯し、共なる解放をめざす新たな歩みを踏み出すことを決意します。

2026年1月23日

第40回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者集会　参加者一同
外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会

福音新聞からのお知らせ

在日大韓基督教会の機関紙「福音新聞」（前　基督新報）は1951年7月創刊号から2026年2月857号まで発行されました。これまでの歩みを主に感謝いたします。

この度すべての福音新聞をPDFにして総会ホームページに掲載しました。（メニューバーの総合資料）

しかし、抜けているところがあります。各教会とご家庭で発見された場合、総会事務局までご連絡くださるようお願い申し上げます。

ルツ結婚相談所
お気軽にお電話ください。心を尽くして御成婚までお世話します。お電話をお待ちしています。
代表　崔貞淑（神戸東部教会名誉勧士、仲人歴30年）
〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町10-35-504
090-3429-9707